

運動・作業効率の向上および評価に関する研究

研究内容

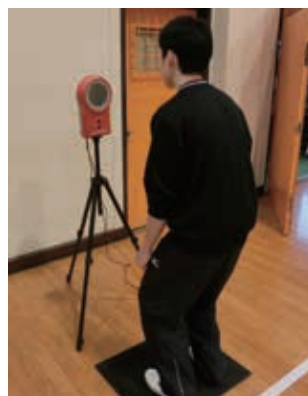
情報を一時的に保ちながら、運動や作業を行うときの記憶過程の概念は「ワーキングメモリ」と言われ、運動、作業効率を大きく左右している。このことを、応用・発展させ、ワーキングメモリの向上から人間の運動能力、作業効率向上の方法を探っていく。

方法としては、パーソナルコンピュータを使用し、ワーキングメモリの測定を行い、運動や作業の効率との関連を調査する。また、ワーキングメモリをトレーニングすることが、運動や他の作業の効率にどの程度影響を与えるのかを実験的に明らかにする。

これまで、作業や運動等の技術向上には特殊な訓練が必要であったが、ワーキングメモリの向上から技術改善を検討している点が特徴的である。

地域・産学連携の可能性

作業能力を大きく左右する要因である、「状況判断」、「空間認知」、「選択的注意」においてワーキングメモリが大いに関与していることが知られている。このことから、各種作業に従事する方々の作業効率アップや、技能向上についてのヒントを求めている企業との連携の可能性がある。



このテーマに関連するSDGs開発目標



総合教育センター スポーツ心理学、認知心理学、スポーツ科学

高野 淳司 TAKANO Atsushi

教授、博士（医学）